

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
57	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and prostate cancer risk: results from the Melbourne collaborative cohort study. アルコール消費と前立腺がんリスク: the Melbourne collaborative cohort study からの結果	
執筆者	
Baglietto L, Severi G, English DR, Hopper JL, Giles GG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2006;119:1501-4	
キーワード	
前立腺がん、アルコール、前向きコホート研究	
要旨	
<p>アルコール消費と前立腺がんリスクとの関連を支持する根拠はほとんどないにも関わらず、アルコール消費のパターン、タイプの進行性・非進行性腫瘍への影響に対する疑問は存在する。</p> <p>1994年から2003年末まで追跡された、リクルート時20歳から70歳までの16,872人の男性で構成された前向きコホートにおいて、732の新規発生の前立腺がんが地域がん登録を通じて同定された。その中には132例の進行例、53例の前立腺がん死亡が含まれる。アルコール消費の詳細な情報は構成された調査票を使用し訓練された面接者によってベースライン時に収集された。全体としてアルコール消費は前立腺がん罹患と関連がなかった。禁酒者と比較すると1-19g/日アルコールを消費する男性では進行性前立腺がんの罹患が若干減少した(ハザード比:0.56(95%信頼区間:0.28-1.14))。しかし非進行性前立腺がんでは1に近かった(ハザード比:1.09(95%信頼区間:0.85-1.40))。飲酒パターンやアルコール飲料のタイプで有意な関連は見られなかった。</p> <p>われわれの結果から、アルコール消費は全体的な前立腺がん罹患に影響を与えないこと、アルコール消費が進行性前立腺がん罹患および死亡を減少させる可能性を示唆することがわかった。</p>	